

## 令和5年度 シラバス

科目名	一般臨床医学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久常 昌美
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	医学一版に関する学識を得る				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	小テスト・定期試験				
教科書	PT・OTのための一般臨床医学(医歯薬出版)				
参考書	特になし				

回数	項目	授業内容
第1回目	救命救急医療 ①	救命救急医療 ①
第2回目	救命救急医療 ②	救命救急医療 ②
第3回目	外科総論 ①	外科総論 ①
第4回目	外科総論 ②	外科総論 ②
第5回目	脳神経外科概論 ①	脳神経外科概論 ①
第6回目	脳神経外科概論 ②	脳神経外科概論 ②
第7回目	皮膚疾患 ①	皮膚疾患 ①
第8回目	皮膚疾患 ②	皮膚疾患 ②
第9回目	泌尿器・生殖器疾患 ①	泌尿器・生殖器疾患 ①
第10回目	泌尿器・生殖器疾患 ②	泌尿器・生殖器疾患 ②
第11回目	婦人科・産科疾患 ①	婦人科・産科疾患 ①
第12回目	婦人科・産科疾患 ②	婦人科・産科疾患 ②
第13回目	眼疾患	眼疾患
第14回目	耳鼻咽喉科疾患	耳鼻咽喉科疾患
第15回目	老年医学	老年医学
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	内科学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	安田 美紀
実務経験	理学療法士として11年以上の実務経験あり				
到達目標	代表的な内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	小テスト・定期試験				
教科書	標準理学療法学 作業療法学 内科学(医学書院)				
参考書	特になし				

回数	項目	授業内容
第1回目	総論	内科学総論
第2回目	内科的診断と治療の実際	内科学診断と治療の実際
第3回目	症候学	症候学
第4回目	循環器疾患	循環器疾患
第5回目	呼吸器疾患	呼吸器疾患
第6回目	消化管疾患	消化管疾患
第7回目	肝胆膵疾患	肝胆膵疾患
第8回目	血液・造血器疾患	血液・造血器疾患
第9回目	代謝性疾患	代謝性疾患
第10回目	内分泌疾患	内分泌疾患
第11回目	腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器疾患
第12回目	アレルギー疾患	アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症
第13回目	感染症	感染症
第14回目	栄養学	栄養学
第15回目	救急救命	救急救命
備考		

# 令和5年度 シラバス

科目名	整形外科学 (60)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	藤井 隆文
到達目標	理学療法士として臨床で生かせる整形外科に関する基礎知識と評価・診断技術を学ぶ				
履修上の注意	次回講義分野における解剖学、生理学の予習をして下さい。				
成績評価方法	学科試験,出席状況などの総合評価 ※学院の規定に準ずる				
教科書	標準整形外科学(医学書院)				
参考書	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系(医学書院) 筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版)、シンプル生理学(南江堂)など				

回数	項目	授業内容
第1回目	基礎知識①	骨について
第2回目	基礎知識②	関節について
第3回目	基礎知識③	関節について,関節軟骨について
第4回目	基礎知識④	筋・神経について,痛みについて
第5回目	診断総論①	主訴,主症状から想定すべき疾患,整形外科的現症の取り方
第6回目	診断総論②	整形外科的現症の取り方,検査
第7回目	診断総論③	整形外科的現症の取り方,検査
第8回目	疾患総論①	感染症,関節リウマチ
第9回目	疾患総論②	関節リウマチ,慢性関節疾患(退行性,代謝性)
第10回目	疾患総論③	循環障害と阻血壊死性疾患,先天性骨系統疾患,先天異常症候群,代謝性骨疾患
第11回目	疾患総論④	骨腫瘍,軟骨腫瘍,神経・筋疾患
第12回目	外傷学①	外傷概論,軟部組織損傷,骨折・脱臼,脊椎・脊髄損傷
第13回目	治療・外傷・疾患各論①	肩関節
第14回目	治療・外傷・疾患各論②	肩関節

第15回目	治療・外傷・疾患各論③	肘関節,手関節と手
第16回目	治療・外傷・疾患各論④	頸椎,胸郭
第17回目	治療・外傷・疾患各論⑤	頸椎,胸郭
第18回目	治療・外傷・疾患各論⑥	胸椎,腰椎
第19回目	治療・外傷・疾患各論⑦	胸椎,腰椎
第20回目	治療・外傷・疾患各論⑧	股関節
第21回目	治療・外傷・疾患各論⑨	股関節
第22回目	治療・外傷・疾患各論⑩	股関節
第23回目	治療・外傷・疾患各論⑪	膝関節
第24回目	治療・外傷・疾患各論⑫	膝関節
第25回目	治療・外傷・疾患各論⑬	膝関節
第26回目	治療・外傷・疾患各論⑭	足関節と足
第27回目	治療・外傷・疾患各論⑮	足関節と足
第28回目	治療・外傷学②	末梢神経損傷
第29回目	スポーツと整形外科	スポーツ障害,障がい者スポーツ
第30回目	まとめ	まとめ(検査実技など)
備考	講義の進行状況などにより内容が変更される可能性があります。	

## 令和5年度 シラバス

科目名	神経内科学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	丹野 晴臣
実務経験	理学療法士として7年以上の実務経験あり				
到達目標	神経内科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。				
履修上の注意	教科書を持参し、予習復習に努めること。				
成績評価方法	筆記試験100%				
教科書	神経内科学(医学書院)				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	各論 ①	神経解剖・錐体路・錐体外路・画像診断
第2回目	各論 ②	運動失調
第3回目	各論 ③	高次脳機能障害・脳神経障害
第4回目	各論 ④	構音障害・嚥下障害
第5回目	各論 ⑤	脳血管障害
第6回目	各論 ⑥	認知症
第7回目	各論 ⑦	脳腫瘍
第8回目	各論 ⑧	脊髄疾患
第9回目	各論 ⑨	変性疾患・脱髄疾患
第10回目	各論 ⑩	頭痛・頭部外傷
第11回目	各論 ⑪	神経損傷・末梢神経疾患
第12回目	各論 ⑫	神経筋疾患
第13回目	各論 ⑬	泌尿器・性器
第14回目	各論 ⑭	正常圧水頭症・小児疾患
第15回目	各論 ⑮	総復習
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	精神医学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	赤津 隆夫
到達目標	精神医学概要の理解 症状、主要疾患の理解				
履修上の注意	配布資料に講義内容を追加して理解する				
成績評価方法	100% 筆記テスト(客観テスト)				
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(医学書院)				
参考書	あればその都度紹介します				

回数	項目	授業内容
第1回目	精神疾患Ⅰ	精神疾患の分類・症状・検査Ⅰ
第2回目	精神疾患Ⅱ	精神疾患の分類・症状・検査Ⅱ
第3回目	統合失調症Ⅰ	統合失調症の診断・症状・治療Ⅰ
第4回目	統合失調症Ⅱ	統合失調症の診断・症状・治療Ⅱ
第5回目	気分障害Ⅰ	気分障害の診断・症状・治療Ⅰ
第6回目	気分障害Ⅱ	気分障害の診断・症状・治療Ⅱ
第7回目	神経症Ⅰ	神経症の診断・症状・治療Ⅰ
第8回目	神経症Ⅱ	神経症の診断・症状・治療Ⅱ
第9回目	小児期精神疾患Ⅰ	小児期・青年期の精神障害Ⅰ
第10回目	小児期精神疾患Ⅱ	小児期・青年期の精神障害Ⅱ
第11回目	睡眠関連障害	睡眠のしくみと睡眠障害
第12回目	物質関連傷害	薬物依存等
第13回目	器質性精神障害Ⅰ	症状性精神疾患、認知症Ⅰ
第14回目	器質性精神障害Ⅱ	症状性精神疾患、認知症Ⅱ
第15回目	てんかん	てんかんとてんかん発作
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	小児科学 (30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	谷 裕武
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	1. 正常小児の成長発達を理解する。 2. 未熟児、新生児の病態を理解する。 3. 小児疾患の特性および病態を理解する。 4. 重症心身障害児の特性と療育について理解する。				
履修上の注意	授業の出席				
成績評価方法	筆記試験100%				
教科書	小児科学テキスト(南江堂)				
参考書	無し				

回数	項目	授業内容
第1回目	小児科学概論①	小児の成長と発達
第2回目	遺伝子と遺伝子疾患	発達区分、成長に関する因子等
第3回目	小児保健と社会小児医学	①胎児から新生児までの各段階の定義を熟知すること。 ②新生児の特有問題を理解する。
第4回目	先天性異常と染色体異常	遺伝に関する基礎知識を熟知すること； 近年の研究によって新たな知見を理解する。
第5回目	先天異常と遺伝病②	幾つかの染色体異常疾患と代謝異常疾患を理解すること。
第6回目	小児の栄養・代謝とその障害	急性神経の感染症と先天性神経疾患を理解すること。
第7回目	内分泌疾患	内分泌疾患と代謝障害を理解すること。
第8回目	免疫不全症	先天性・後天性免疫不全症に対する理解をすること。
第9回目	リウマチ性疾患と類縁疾患 アレルギー・膠原病	自己免疫とリウマチ性疾患、膠原病について理解すること
第10回目	感染症	小児感染症の特徴を理解すること。
第11回目	血液造血器疾患 腫瘍疾患	①血液に関する基礎知識と小児血液疾患の特徴 ②免理解する。
第12回目	神経疾患	神経疾患の基礎知識と小児に発症の多い疾患；
第13回目	骨疾患	骨疾患の基礎知識と小児に発症の多い疾患；
第14回目	小児の筋疾患	発生機序、、筋原疾患等の小児に多い疾患の理解すること
第15回目	期末テスト対策	復習問題の実施、確認
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	脳神経外科学 (30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	森垣 浩一
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり				
到達目標	脳神経外科疾患の病態生理・症状・治療を理解する。				
履修上の注意	復習は各自行うこと。教科書と配布プリントを授業に持ってくること。				
成績評価方法	試験(100%)				
教科書	標準脳神経外科学(医学書院)				
参考書	特になし				

回数	項目	授業内容
第1回目	総論 1	脳神経外科とは、脳の特殊性
第2回目	総論 2	臨床解剖(頭蓋の構造、大脳の構造)
第3回目	総論 3	臨床解剖(脳血管、脳室及びびくも膜下腔)
第4回目	総論 4	神経学的検査について
第5回目	総論 5	補助診断法(能画像の味方)
第6回目	総論 6	脳に特異的な症候と病態
第7回目	各論 1	脳腫瘍
第8回目	各論 2	脳血管障害
第9回目	各論 3	頭部外傷
第10回目	各論 4	先天奇形、水頭症
第11回目	各論 5	機能的脳神経外科
第12回目	各論 6	脊髄・脊椎疾患
第13回目	各論 7	末梢神経の外科
第14回目	各論 8	炎症性疾患
第15回目	まとめ	これまでのまとめ
備考		



## 令和5年度 シラバス

科目名	リハビリテーション学Ⅱ (30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	疾患の臨床症状・経過・治療について学習する。				
履修上の注意	座学と実技で講義を実施する。				
成績評価方法	定期試験(100%) 中間試験(50%) 期末試験(50%)				
教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論(診断と治療社)				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	機能障害とリハビリテーション	運動器疾患とリハビリテーション
第2回目	機能障害とリハビリテーション	運動器疾患とリハビリテーション
第3回目	機能障害とリハビリテーション	神経・筋疾患とリハビリテーション
第4回目	機能障害とリハビリテーション	神経・筋疾患とリハビリテーション
第5回目	機能障害とリハビリテーション	高次脳機能障害とリハビリテーション
第6回目	機能障害とリハビリテーション	高次脳機能障害とリハビリテーション
第7回目	機能障害とリハビリテーション	認知症とリハビリテーション
第8回目	機能障害とリハビリテーション	認知症とリハビリテーション
第9回目	機能障害とリハビリテーション	難病とリハビリテーション
第10回目	機能障害とリハビリテーション	難病とリハビリテーション
第11回目	機能障害とリハビリテーション	脊髄損傷とリハビリテーション
第12回目	機能障害とリハビリテーション	脊髄損傷とリハビリテーション
第13回目	機能障害とリハビリテーション	切断とリハビリテーション
第14回目	機能障害とリハビリテーション	切断とリハビリテーション
第15回目	まとめ	
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	病態運動学 (30/60)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	山中 克也
実務経験	理学療法士として17年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法士として临床上必要な姿勢と基本動作について学ぶ				
履修上の注意	臨床及び国家試験に直結した内容として緊張感を持って臨むこと				
成績評価方法	学科試験、姿勢・動作観察レポート、歩行レポート、出席状況・授業態度を含めた総合評価				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学(中山書店)				
参考書	実践！動作分析(医歯薬出版)、標準理学療法学専門分野 臨床動作分析(医学書院) 15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学(中山書店)				

回数	項目	授業内容
第1回目	理学療法の実際 ①	姿勢・動作を理解するための運動力学
第2回目	理学療法の実際 ②	運動力学の基礎(1)－姿勢の生体力学
第3回目	理学療法の実際 ③	運動力学の基礎(2)－動作の生体力学
第4回目	理学療法の実際 ④	姿勢と保持
第5回目	理学療法の実際 ⑤	正常動作(1)－起き上がり動作, 寝返り動作と床からの立ち上がり動作
第6回目	理学療法の実際 ⑥	正常動作(2)－椅子からの立ち上がり動作, 歩行
第7回目	理学療法の実際 ⑦	高齢者の姿勢・動作の特徴と分析
第8回目	理学療法の実際 ⑧	脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第9回目	理学療法の実際 ⑨	半側無視を有する脳血管障害後片麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第10回目	理学療法の実際 ⑩	対麻痺・四肢麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第11回目	理学療法の実際 ⑪	パーキンソニズムの姿勢・動作の特徴と分析
第12回目	理学療法の実際 ⑫	運動失調の姿勢・動作の特徴と分析
第13回目	理学療法の実際 ⑬	脳性麻痺の姿勢・動作の特徴と分析
第14回目	理学療法の実際 ⑭	変形性股関節症・膝関節症の術前・術後の姿勢・動作の特徴と分析
第15回目	理学療法の実際 ⑮	下肢切断・義足使用の姿勢・動作の特徴と分析
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	病態運動学 (30/60)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として13年以上の実務経験あり				
到達目標	各種検査測定の意味と方法を理解する				
履修上の注意	忘れ物をしない 私語をしない				
成績評価方法	筆記試験 100%				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書	随時プリント配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	オリエンテーションと評価の意味	講義オリエンテーション
第2回目	評価の意味	評価の基礎と概要 情報収集
第3回目	感覚/痛みの評価	表在感覚と深部感覚・痛みの評価
第4回目	反射検査	反射とは 検査方法
第5回目	筋緊張検査	筋緊張とは 検査方法
第6回目	姿勢バランス検査	姿勢バランスの概要
第7回目	協調性検査	協調運動障害と検査の実際
第8回目	中間試験	中間テスト(30点)
第9回目	症例①	脳卒中
第10回目	症例②	大腿骨頸部骨折
第11回目	症例③	パーキンソン病
第12回目	症例④	関節リウマチ
第13回目	症例⑤	変形性関節症
第14回目	症例⑥	末梢神経障害
第15回目	まとめ	まとめとテスト対策
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅲ (30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	山中 克也
実務経験	理学療法士として17年以上の実務経験あり				
到達目標	神経学的検査の理解と実技の習得				
履修上の注意	実技を行う場合は実習着を着用しておくこと				
成績評価方法	学科試験100%(出席、欠席状況により加点、減点有り)				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	腱反射・病的反射 ①	腱反射・表在反射・病的反射
第2回目	腱反射・病的反射 ②	腱反射・表在反射・病的反射 演習
第3回目	感覚検査 ①	表在感覚、深部感覚、複合感覚
第4回目	感覚検査 ②	表在感覚、深部感覚、複合感覚 演習
第5回目	脳神経検査 ①	嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経
第6回目	脳神経検査 ②	顔面神経、聴神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経
第7回目	確認試験	1回目～6回目確認試験
第8回目	小脳機能 ①	運動失調
第9回目	小脳機能 ②	小脳障害
第10回目	運動機能 ①	不随意運動、筋緊張、受動運動による徴候
第11回目	運動機能 ②	歩行の異常、検査
第12回目	痛みの評価	疼痛の検査、VAS
第13回目	精神状態の評価	意識障害、認知機能
第14回目	運動麻痺の検査	運動麻痺、片麻痺
第15回目	不随意運動 期末試験の説明	不随意運動とは、期末試験範囲の説明
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅳ (16/30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として13年以上の実務経験あり				
到達目標	運動器に発生する障害を理解し、適切な検査項目を挙げ、その意味・意義を理解して実施できること				
履修上の注意	実技はきちんとすること				
成績評価方法	筆記試験(100%)				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫) 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(中山書店)				
参考書	随時プリント配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	オリエンテーション・ 整形外科とは	整形外科検査の意義と疼痛について
第2回目	痛みの評価について	痛みの評価 医療面接と評価
第3回目	整形外科検査 実技	各種疾患の概要
第4回目	整形外科検査 実技	頸部/胸郭出口症候群
第5回目	整形外科検査 実技	上肢
第6回目	整形外科検査 実技	下肢 体幹
第7回目	整形外科検査 実技	まとめ①
第8回目	整形外科検査 実技	まとめ②
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	理学療法評価学Ⅳ (14/30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	久常 昌美
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	各種疾患の動作介助について学びますが、まずは正常動作の理解を深めます。理学療法士は「動作のプロ」です。積極的に授業に参加してください。				
履修上の注意	実技を行える服装で受講すること				
成績評価方法	学科試験・授業態度				
教科書	なし(授業資料を配布します)				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	正常動作の理解 ①	基本動作について(寝返り・起き上がり・座位保持・立ち上がり動作) 基本動作の持つ意味について学ぶ 正常動作:実技練習[寝返り～起き上がり、座位保持]
第2回目	正常動作の理解 ②	正常動作:座位保持～立ち上がり動作～立位保持
第3回目	実際の動作介助について ① 下肢骨折(大腿骨近位部骨折)	疾患・機能障害の概要、起居・移乗・移動 術後の荷重の経過について
第4回目	実際の動作介助について ② 下肢骨折(人工関節全置換術 THA)	疾患・機能障害の概要、起居・移乗・移動 術後の荷重の経過について
第5回目	実際の動作介助について ③ 下肢骨折(人工関節全置換術 TKA)	疾患・機能障害の概要、起居・移乗・移動 術後の荷重の経過について
第6回目	実際の動作介助について ④ パーキンソン病	疾患・機能障害の概要、起居・移乗・移動
第7回目	実際の動作介助について ⑤ 脳卒中片麻痺	疾患・機能障害の概要、起居・移乗・移動
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅰ (30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	久常 昌美 (オムニバス)
実務経験	久常 昌美:理学療法士として8年以上の実務経験あり 森垣 浩一:理学療法士として19年以上の実務経験あり 金島 理恵:理学療法士として15年以上の実務経験あり 久保けい子:理学療法士として13年以上の実務経験あり 橋本 貴之:理学療法士として14年以上の実務経験あり 丹野 晴臣:理学療法士として7年以上の実務経験あり 谷 裕武:理学療法士として15年以上の実務経験あり 吉田 峻 :理学療法士として14年以上の実務経験あり 山中 克也:理学療法士として17年以上の実務経験あり 安田 美紀:理学療法士として11年以上の実務経験あり				
到達目標	臨床検査実習に向けて、情報収集、面接、検査・測定などの知識と技術を習得する				
履修上の注意	学科試験、提出課題、出席状況および態度を含めて評価する				
成績評価方法	筆記試験および実技試験				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	評価学概説	評価および検査の意味、理学療法の中の位置づけ、実施方法
第2回目	検査演習 ①	バイタルサイン
第3回目	検査演習 ②	形態計測
第4回目	検査演習 ③	反射検査
第5回目	検査演習 ④	関節可動域測定
第6回目	検査演習 ⑤	徒手筋力検査法
第7回目	検査演習 ⑥	動作分析、歩行分析①
第8回目	検査演習 ⑦	身体介助
第9回目	検査演習 ⑧	感覚検査
第10回目	検査演習 ⑨	片麻痺機能検査
第11回目	検査演習 ⑩	協調性検査
第12回目	検査演習 ⑪	動作分析、歩行分析②
第13回目	検査演習 ⑫	高次脳機能検査
第14回目	検査演習 ⑬	ADL・QOL検査
第15回目	検査演習 ⑭	まとめ
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅱ (30)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	久常 昌美 (オムニバス)
実務経験	久常 昌美:理学療法士として8年以上の実務経験あり 森垣 浩一:理学療法士として19年以上の実務経験あり 金島 理恵:理学療法士として15年以上の実務経験あり 久保けい子:理学療法士として13年以上の実務経験あり 橋本 貴之:理学療法士として14年以上の実務経験あり 丹野 晴臣:理学療法士として7年以上の実務経験あり 谷 裕武:理学療法士として15年以上の実務経験あり 吉田 峻 :理学療法士として14年以上の実務経験あり 山中 克也:理学療法士として17年以上の実務経験あり 安田 美紀:理学療法士として11年以上の実務経験あり				
到達目標	基礎専門分野の知識を身に付ける				
履修上の注意	忘れ物をしない				
成績評価方法	筆記試験100%				
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 臨床医学(医歯薬出版)				
参考書	随時プリント配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	講義の進め方と概要
第2回目	解剖生理学植物性機能①	循環器系 消化器系
第3回目	解剖生理学植物性機能②	泌尿器生殖器系 呼吸器系
第4回目	解剖生理学植物性機能③	内分泌系 代謝 発生学
第5回目	解剖生理学動物性機能①	中枢神経系
第6回目	解剖生理学動物性機能② 運動学	末梢神経系 運動学
第7回目	病理学	病理学
第8回目	病理学	病理学
第9回目	内科学	内科学
第10回目	内科学	内科学
第11回目	骨関節障害と臨床医学	骨関節障害と臨床医学
第12回目	骨関節障害と臨床医学	骨関節障害と臨床医学
第13回目	中枢神経・末梢神経・筋の障害 と臨床医学	中枢神経・末梢神経・筋の障害と臨床医学
第14回目	中枢神経・末梢神経・筋の障害 と臨床医学	中枢神経・末梢神経・筋の障害と臨床医学
第15回目	まとめ	第1回～第14回のまとめ
備考	必要な教科書の準備をする	



## 令和5年度 シラバス

科目名	理学療法評価学演習Ⅲ (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久常 昌美
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	疾患に応じた評価項目の選定と正確に検査測定が出来る				
履修上の注意	忘れ物をしない 私語をしない				
成績評価方法	実技試験(50%)、筆記試験(50%)				
教科書	理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法(神陵文庫)				
参考書	随時プリント配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	講義の進め方と概要
第2回目	バイタルサイン	適切なオリエンテーションとバイタルサイン測定
第3回目	情報収集と情報の整理	情報収集 問診の実際 リスク管理
第4回目	検査測定演習 ①	関節可動域測定
第5回目	検査測定演習 ②	筋力測定
第6回目	検査測定演習 ③	形態測定 周径
第7回目	検査測定演習 ④	腱反射 感覚検査
第8回目	検査測定演習 ⑤	疼痛検査
第9回目	検査測定演習 ⑥	筋緊張検査 協調性検査
第10回目	検査測定演習 ⑦	上肢体幹下肢機能評価
第11回目	検査測定演習 ⑧	姿勢バランス検査 持久力検査
第12回目	確認テスト ①	関節可動域測定 MMT①
第13回目	確認テスト ②	関節可動域測定 MMT②
第14回目	確認テスト ③	形態測定 周径 反射 Brステージ 感覚①
第15回目	確認テスト ④	形態測定 周径 反射 Brステージ 感覚②
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	運動療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	谷 裕武
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	理学療法における運動療法の基礎知識の理解 理学療法における、代表疾患に対する運動療法を理解し、専門領域への導入をはかること。				
履修上の注意	座学・演習を交える				
成績評価方法	中間試験(40%)・定期試験(50%)・提出物(10%)・受講態度(遅刻、早退:0.5点 欠席:1点 減点)				
教科書	運動療法学総論(医学書院)				
参考書	都度、配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	運動療法概念	運動療法の歴史 運動療法の定義・目的・対象疾患
第2回目	運動療法基礎 ①	関節の構造と運動 随意運動と運動制御 ①
第3回目	運動療法基礎 ②	関節の構造と運動 随意運動と運動制御 ②
第4回目	運動療法基礎 ③	関節の構造と運動 随意運動と運動制御 ③
第5回目	運動の種類 ①	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類 ①
第6回目	運動の種類 ②	運動をおこす力による分類、筋収縮の様式による分類 ②
第7回目	第1週目～第6週目まとめ	第1週目～第6週目:確認試験
第8回目	基本的な運動療法 ①	関節可動域運動 ①
第9回目	基本的な運動療法 ②	関節可動域運動 ②
第10回目	基本的な運動療法 ③	筋力増強運動 ①
第11回目	基本的な運動療法 ④	筋力増強運動 ②
第12回目	基本的な運動療法 ⑤	持久力増強運動 ①
第13回目	基本的な運動療法 ⑥	持久力増強運動 ②
第14回目	基本的な運動療法 ⑦	協調性運動
第15回目	講義まとめ	講義復習
備考	実技時:ジャージ着用 装飾品外すこと。講義の進行程度によって、上記予定を変更することがある。	

## 令和5年度 シラバス

科目名	義肢装具学 I (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	中枢・末梢神経疾患、骨関節疾患、神経筋疾患などにより運動機能障害を呈した人に対して適切な装具療法が実施できるよう、装具の基本的な構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を理解する。				
履修上の注意	毎授業の復習をしっかりと行うこと				
成績評価方法	筆記試験100%				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学(中山書店)				
参考書	必要に応じて資料配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	装具学総論	装具療法の基本、3点固定の原理、作成の流れ
第2回目	下肢装具の部品とその機能	下肢装具を構成する各関節の継手や足部などの基本的部位名称・構造・機能
第3回目	短下肢装具	短下肢装具の目的や対象療法、種類、基本的な構造や機能
第4回目	長下肢装具・股装具・膝装具	長下肢装具・股装具・膝装具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能
第5回目	靴型装具	靴型装具の目的や基本的な構造、各種補正
第6回目	下肢装具のチェックアウト ①	下肢装具の適合、チェックアウト項目とその方法 ①
第7回目	下肢装具のチェックアウト ②	下肢装具の適合、チェックアウト項目とその方法 ②
第8回目	体幹装具・側弯症装具	体幹装具・側弯装具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能
第9回目	上肢装具と自助具	上肢装具と自助具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能
第10回目	車椅子・歩行補助具	車椅子の種類や構造、部品、チェックポイント、各歩行補助具の種類や機能
第11回目	疾患別装具の処方 ① 脳卒中片麻痺の装具	脳卒中片麻痺の病態と装具の適応
第12回目	疾患別装具の処方 ② 整形外科疾患の装具	整形外科疾患に用いられる装具の種類や構造
第13回目	疾患別装具の処方 ③ 関節リウマチの装具	関節リウマチに用いられる装具の種類や構造
第14回目	疾患別装具の処方 ④ 対麻痺・小児の装具	対麻痺や小児に用いられる装具の種類や構造
第15回目	まとめ	第1回～14回までのまとめ
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	日常生活活動学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として13年以上の実務経験あり				
到達目標	疾患別における日常生活活動について学ぶ				
履修上の注意	忘れ物をしない				
成績評価方法	中間・定期試験 筆記試験(100%)				
教科書	PTOTビジュアルテキスト ADL(羊土社)				
参考書	適宜プリント配布				

回数	項目	授業内容
第1回目	ADLとは	オリエンテーションと概念
第2回目	ADL評価	評価方法 BI/FIM
第3回目	ADL介助方法	疾患別 介助方法の基本
第4回目	疾患別ADL①	パーキンソン病
第5回目	疾患別ADL②	神経筋疾患
第6回目	疾患別ADL③	認知症
第7回目	疾患別ADL④	統合失調症
第8回目	疾患別ADL⑤	脳性麻痺
第9回目	疾患別ADL⑥	脊椎疾患
第10回目	疾患別ADL⑦	呼吸器疾患
第11回目	疾患別ADL⑧	心疾患
第12回目	疾患別ADL⑨	関節リウマチ
第13回目	疾患別ADL⑩	人工関節全置換術
第14回目	疾患別ADL⑪	下肢骨折
第15回目	症例提示	回復期 在宅におけるADL指導
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	脳血管障害理学療法学 (30/60)時間	前期	第Ⅱ学科2学年	講師	森垣 浩一
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり				
到達目標	脳の基本的な構造や機能を再学習し、脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な理学療法の考え方を理解する。				
履修上の注意	私語など他者の迷惑になる行為は行わないこと。				
成績評価方法	学科試験100%(出席状況により加点、減点有り)				
教科書	前半:配布資料 後半:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店)				
参考書	適時配布資料あり				

回数	項目	授業内容
第1回目	中枢神経系の機能解剖 1	灰白質、白質と神経節、根、脳室系
第2回目	中枢神経系の機能解剖 2	脳の基本的構造
第3回目	中枢神経系の機能解剖 3	前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉の機能
第4回目	脳卒中の画像の診かた 1	各断面像でのCT画像
第5回目	脳卒中の画像の診かた 2	各断面像でのMRI画像(T1・T2)
第6回目	脳卒中の画像の診かた 3	各断面像でのMRI画像(FLAIR・DWI)
第7回目	高次脳機能障害 1	失行と失認
第8回目	高次脳機能障害 2	失語とその他種々の高次脳機能障害
第9回目	脳血管疾患の障害 1	脳卒中の病態・特徴、中枢性麻痺の本態
第10回目	脳血管疾患の障害 2	共同運動パターンと連合反応、姿勢反射と平衡反応
第11回目	脳血管疾患の障害 3	痙性と筋緊張異常
第12回目	脳血管疾患の障害 4	頭部外傷・脳外傷の種類と特徴、高次脳機能障害
第13回目	脳血管疾患後の機能回復 1	Brunnstromステージと回復過程
第14回目	脳血管疾患後の機能回復 2	Brunnstromステージと機能訓練
第15回目	まとめ	第1回～14回のまとめ
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	脳血管障害理学療法学 (30/60)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	森垣 浩一
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり				
到達目標	脳の基本的な構造や機能を再学習し、脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な理学療法の考え方を理解する。				
履修上の注意	私語など他者の迷惑になる行為は行わないこと。				
成績評価方法	学科試験100%(出席状況により加点、減点有り)				
教科書	後半:15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店)				
参考書	適時配布資料あり				

回数	項目	授業内容
第1回目	中枢神経系理学療法の基礎知識	総論/中枢神経系の構造と基礎知識
第2回目	運動と感覚の中枢機能と構造	基本的な解剖知識と病巣と症状の関連性
第3回目	脳損傷の定義と病態	脳血管障害の分類(NINDS-Ⅲ)による病態説明
第4回目	脳損傷とその回復	脳血管障害後の機能回復の特徴
第5回目	脳血管障害における医学管理	脳血管障害に対する急性期治療
第6回目	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ	脳血管障害リハビリテーションの流れ
第7回目	脳血管障害後片麻痺患者の運動障害の特徴	脳血管障害後片麻痺患者に生じる[身体構造と機能]
第8回目	脳血管障害片麻痺患者に対する評価(1)	脳血管障害患者を理解する前に ICFに基づく障害理解
第9回目	脳血管障害片麻痺患者に対する評価(2)	評価の実際、姿勢分析
第10回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(1)	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング概略
第11回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(2)	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング 寝返り・起き上がり
第12回目	脳血管障害後片麻痺患者に対するトレーニング(3)	歩行障害概要
第13回目	脳血管障害における合併症	脳血管障害による肩関節痛
第14回目	高次脳機能障害と理学療法	高次脳機能障害
第15回目	脳血管障害における理学療法の実際	症例から学ぶ理学療法の実際
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	骨関節疾患理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久保 けい子
実務経験	理学療法士として13年以上の実務経験あり				
到達目標	整形外科疾患に対する理解と適切な理学療法プログラムを立案できる				
履修上の注意	各講義後に必ず見直しをすること 教科書は授業開始前に準備して着席しておくこと				
成績評価方法	筆記試験(60%) 小テスト(40%)				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ/Ⅱ(中山書店)				
参考書	適宜プリント 解剖生理の本等				

回数	項目	授業内容
第1回目	組織再生・修復 1・2章	組織再生と修復の理解 炎症の評価と理学療法実施上の注意点を理解する
第2回目	骨折と脱臼総論～治療 3・4章	骨折と脱臼の病態・合併症の理解 骨折のリスク管理とADL指導の理解
第3回目	高齢者の骨折 5～7章★	高齢者の骨折における発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第4回目	変形性股・膝関節症 8～11章★	変形性関節症の病態・各病期の理解 病気に応じた適切な治療の理解
第5回目	関節リウマチ 12・13章	RA・特定疾患の理解と評価・治療・ADL指導とリスク管理の理解
第6回目	末梢神経障害 14・15章	病態・原因・神経走向・評価～治療の理解
第7回目	I部小テストとまとめ	★印を中心にI部テキストのおさらい テスト20点
第8回目	頸部疾患総論～治療 16・17章★	頸部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第9回目	腰部疾患総論～治療 18・19章★	腰部疾患の病態理・症状・評価～治療・リスク管理の理解
第10回目	脊椎疾患総論～治療 20・21章	術式の理解と術式に応じた評価～治療・リスク管理・禁忌事項の理解
第11回目	肩関節疾患総論～治療 22～25章★	肩関節疾患における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第12回目	膝靭帯半月板損傷総論～治療 26～28章	靭帯半月板損傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第13回目	捻挫と肉離れ総論～治療 29・30章	スポーツ外傷における特徴・発生機序・治療・リスク管理・ADL指導の理解
第14回目	Ⅱ部小テストとまとめ	★印を中心にⅡ部テキストのおさらい テスト20点
第15回目	症例グループワーク	症例別に運動プログラムを立案する
備考	変更時連絡あり	

## 令和5年度 シラバス

科目名	神経・筋疾患理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	森垣 浩一
実務経験	理学療法士として19年以上の実務経験あり				
到達目標	主要な神経筋疾患の障害特性を理解し、その障害評価と機能・能力障害に対する運動療法を理解する。				
履修上の注意	講義を中心に、必要に応じて実技を実施する。				
成績評価方法	学科試験(100%) 出席状況も加味する				
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ(中山書店)				
参考書	特になし				

回数	項目	授業内容
第1回目	神経・筋疾患について 概論	神経系、障害部位について
第2回目	変性疾患(パーキンソン病)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第3回目	小脳疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第4回目	筋疾患(筋ジストロフィー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第5回目	変性疾患(ALS)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第6回目	脱髄疾患 (多発性硬化症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第7回目	末梢神経疾患 (ニューロパシー)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第8回目	脱髄疾患 (ギランバレー症候群)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第9回目	末梢神経損傷疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第10回目	脳性麻痺	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第11回目	筋疾患 (多発性筋炎、皮膚筋炎)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第12回目	神経筋接合部疾 (重症筋無力症)	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第13回目	脳血管障害	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第14回目	その他疾患	障害特性を理解、障害評価と機能・能力障害を理解
第15回目	まとめ	演習
備考		



## 令和5年度 シラバス

科目名	脊髄損傷理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	金島 理恵
実務経験	理学療法士として15年以上の実務経験あり				
到達目標	脊髄損傷の理学療法に対する知識・技術を習得する。				
履修上の注意	座学と実技を含めて講義を進めます。				
成績評価方法	中間試験(50%) 期末試験(50%)				
教科書	15レクチャーシリーズ 神経障害理学療法学Ⅱ(中山書店)				
参考書	講義中に資料を配布します。				

回数	項目	授業内容
第1回目	脊髄損傷総論 ①	脊髄の構造・機能と疾病の基礎
第2回目	脊髄損傷総論 ②	損傷高位の診断・臨床応用
第3回目	脊髄損傷総論 ③	完全損傷・不全損傷、不全損傷の特殊型
第4回目	脊髄損傷総論 ④	随伴症状・合併症
第5回目	理学療法評価 ①	ASIA、Frankel分類
第6回目	理学療法評価 ②	デルマトーム、キーマッスル
第7回目	理学療法評価 ③	ADL予測
第8回目	確認テスト	第1回～第7回の講義範囲
第9回目	ADL ①	ベッド上動作・マット上動作
第10回目	ADL ②	移乗動作・車椅子操作
第11回目	自助具と装具 ①	万能カフなど自助具について
第12回目	自助具と装具 ②	座薬挿入器など自助具について
第13回目	国家試験問題 ①	過去10年分の国家試験問題
第14回目	国家試験問題 ②	過去10年分の国家試験問題
第15回目	まとめ	これまでのまとめ
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	小児疾患理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	万代 浩司
到達目標	小児疾患の理解を深め、臨床像をイメージする。代表疾患に関しては国家試験レベルの知識を学ぶ。				
履修上の注意	メリハリのある授業にします、講義は静かに聞いてください。活発なディスカッションを行いましょう。				
成績評価方法	学科試験(100%)				
教科書	イラストでわかる小児理学療法学(医歯薬出版)				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	オリエンテーション	自己紹介
第2回目	小児疾患について	代表的疾患について学ぼう
第3回目	脳性麻痺総論	PVL、頭部外傷など
第4回目	脳性麻痺Ⅰ	痙直型タイプ(四肢麻痺)
第5回目	脳性麻痺Ⅱ	痙直型タイプ(両麻痺)
第6回目	脳性麻痺Ⅲ	アトローゼ型
第7回目	脳性麻痺Ⅳ	片麻痺、頭部外傷による脳障害
第8回目	ダウン症	ファロー4徴候
第9回目	筋ジストロフィーⅠ	デシャンヌ型、仮性肥大など
第10回目	筋ジストロフィーⅡ	福山型、厚労省ステージ分類、その他
第11回目	二分脊椎	脊髄髄膜留
第12回目	重度呼吸障害児	ポジショニング、呼吸リハ
第13回目	染色体異常	奇形や知的障害について
第14回目	動作分析Ⅰ	立ち上がり、トランスファー
第15回目	動作分析Ⅱ	歩行分析
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	呼吸障害理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	橋本 貴之
実務経験	理学療法士として14年以上の実務経験あり				
到達目標	呼吸器の解剖や各疾患の特徴、理学療法が理解できる。 その他、内部疾患(代謝障害、がん)についても概要とリハビリテーションを理解する。				
履修上の注意	呼吸器、腎臓、肝臓に関する解剖・生理を復習しておくこと。				
成績評価方法	定期試験80% 出席状況・授業への取り組み 20%(合計100%)				
教科書	15レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 呼吸(中山書店)				
参考書	国試及び模試の過去問題				

回数	項目	授業内容
第1回目	内部障害の定義	呼吸器の解剖、生理学、評価について
第2回目	呼吸不全について	概要、症状、病態、疾患(COPD、IPなど)について
第3回目	呼吸リハビリテーション	呼吸リハビリテーションの概要、評価、プロセスについて
第4回目	呼吸リハビリテーション	呼吸リハビリテーションにおける運動療法、日常生活指導について
第5回目	人工呼吸器	人工呼吸器の役割、設定について
第6回目	排痰と吸引	排痰と吸引について
第7回目	まとめ・復習(呼吸機能障害)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う。
第8回目	糖尿病	糖尿病の概要について
第9回目	糖尿病	糖尿病に関するリハビリテーション、日常生活指導について
第10回目	脂質異常	脂質異常の概要について
第11回目	まとめ・復習(糖尿病・脂質異常)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う。
第12回目	がん	がんの概要について
第13回目	がん	がんに関するリハビリテーション、日常生活指導について
第14回目	まとめ・復習(がん)	テストとその解説にて理解度の確認、知識の整理を行う
第15回目	復習・試験対策	呼吸器、脂質異常、がんについて復習する
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	心・末梢循環理学療法学 (30)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講師	久常 昌美
実務経験	理学療法士として8年以上の実務経験あり				
到達目標	心・末梢循環の疾患に対する理学療法学について学ぶ				
履修上の注意	医療人の必須スキルとして真剣に授業に臨むこと				
成績評価方法	小テスト・定期試験				
教科書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環代謝				
参考書					

回数	項目	授業内容
第1回目	循環 ①	心臓リハビリテーションの概要
第2回目	循環 ②	虚血性心疾患の理学療法
第3回目	循環 ③	心不全の理学療法
第4回目	循環 ④	大動脈疾患の理学療法
第5回目	循環 ⑤	末梢動脈疾患の理学療法
第6回目	循環 ⑥	深部静脈血栓の理学療法
第7回目	循環 ⑦	不整脈と心電図の診かた
第8回目	循環 ⑧	運動処方(体カテスト,Borg指数を含む)
第9回目	循環 ⑨	再発予防とチーム医療
第10回目	循環 ⑩	一次救命処置
第11回目	代謝 ①	代謝障害
第12回目	代謝 ②	エネルギー消費量
第13回目	代謝 ③	運動強度とプログラム
第14回目	代謝 ④	糖尿病の治療と運動療法
第15回目	代謝 ⑤	腎疾患と理学療法
備考		

## 令和5年度 シラバス

科目名	臨床検査実習 (90)時間	前期	第 I 学科2学年	講 師	専任教員 臨床実習指導者
到達目標	1. 適切な時間配分のもとで必要な情報を問診その他で取得し記述する。 2. 疾患に適応する検査項目を選び安全かつ正確に実施し記録する。 3. 検査の過程に適宜必要な技能の行使について指導を受け、正確度を高める。 4. 検査のために必要な介助技術を安全に実践する(主に起き上がり、座位、立位、移乗) 5. 時間配分や患者様への配慮(時間、気遣いなど)のもとで各検査項目を実行し、適切に記録する。 6. 報告・連絡・相談の実際を体験し、実習遂行の円滑化に留意する。				
履修上の注意	各実習施設に応じて準備すること。				
成績評価方法	実習前評価[OSCE](20%)、実習施設評価(60%)、実習後評価[実習報告会](20%)				
教科書	特になし				
参考書	購入したすべての教科書				

講義計画・講義内容	
1. 実習は臨床実習施設において2週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、学校で学んだ評価技術を臨床の現場で体験する。 3. 2年次前期までの授業で学んだ知識や技術を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 4. 学内においては実習前に実習前実技試験、実習終了後に実習報告会(発表)を行う。	
<p>臨床検査実習では、既習範囲の基本的検査および測定の実施法、選択について、実際の症例に対して実施する。同時に患者へのアプローチや問診、検査方法(手順)などの技能および態度を学ぶ。</p>	
備考	

## 令和5年度 シラバス

科目名	臨床評価実習 (180)時間	後期	第Ⅱ学科2学年	講 師	専任教員 臨床実習指導者
到達目標	1. 臨床見学実習、臨床検査実習の目標に加え、以下を満たせる様に努力する。 2. 評価に必要な介助技術を安全に実践する(臥位～立位、歩行)。 3. 検査・測定を多様な疾患に対してある程度の助言・指導の下に行える。 4. 検査結果から障害像を推察する。 5. 可能であれば予後予測や問題点の解決(プログラム立案など)も考える。				
履修上の注意	各実習施設に応じて準備すること。				
成績評価方法	実習前評価[OSCE](20%)、実習施設評価(60%)、実習後評価[実習報告会](20%)				
教科書	特になし				
参考書	購入したすべての教科書				

講義計画・講義内容	
1. 実習は臨床実習施設において4週間行われる。 2. 内容は、各施設における実習指導者の指導・監督の下、学校で学んだ評価技術を臨床の現場で体験し、それぞれの評価・測定結果について考えていく。また、いくつかの検査結果を統合して、患者の障害像を推察していく。 3. 2年次までの授業で学んだ知識や技術を実際の臨床現場で体験し、理解を深める。 4. 学内においては実習前に実習前実技試験、実習終了後に実習報告会(発表)を行う。	
臨床評価実習では、既習範囲の基本的検査及び測定の実施法、選択、解釈について、実際の対象者等を通じて実践的スキルに高めていく。同時に患者等へのアプローチや問診、検査方法(手順)等のスキル及び態度を学ぶ。 また、臨床的問題を解決するために、理解している知識を総動員し、適切な情報を集め、問題を同定し仮説を証明するための計画を立てる。それによって得られた結果の解釈を分析・統合し、治療方針を決定できるように務める。対象者との信頼関係の構築や専門的知識の応用力を養う。	
備考	